

ちよつとそしまで

わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩



広安小学校などがある馬水地区は、県道熊本高森線を挟んで南と北の区に分かれています。先祖代々ここに暮らす人と移住した人たちが、助け合い支え合うこの地区の、ほほえましい普段の生活のひとこまに触れました。

砂鉄が取れる鉄砂川 天満宮の夜の祭り

馬水地区の南北を流れる鉄砂川。川底から鉄製品の材料となる砂鉄が取れることで、古代、権力のある豪族がこの辺りを拠点にしていたと伝わります。

鉄砂川近くの少し高台に、狐塚天満宮があります。境内には稲荷神社の祠と古墳があり、全国でも珍しい組み合わせです。



鉄砂川に掛かる竹野橋のたもとにかけられた、水難事故防止のお守り

「毎年12月15日に天満宮の祭りが行われます。3つの集落の人たちが寄り合って、新しいしめ縄を飾り、夕方から神事が行われ、夜の11時ごろまで祭りが開催されます」と話すのは天満宮近くに住む粟津順一さん(87)です。神事後、境内で生竹とわらを積んだ「鬼火」というたき火が行われ、前年のしめ縄を燃やし、邪気を払って無病息災を祈願するそうです。昔は子どもたちが参加した「いのかづき」や「もぐらうち」、相撲などの



狐塚天満宮の掃除などを行っている粟津さん

行事が開催されていたようですが、この伝承はなくなりました。

「子どもたちも大人になり、こうした習わしもなくなっていくたんでしよう。なんか寂しかですよね」と粟津さんは言います。

境内横にある稲荷神社の祠には、キツネに乗った神様を描いた木造のご神体が飾られています。ここは地域の人たちの心より所であり、この場所から鉄砂川に広がる景色を見下ろせます。



キツネに乗った神様を描いた木造のご神体



狐塚天満宮の境内にある稲荷神社



馬水北にある狐塚天満宮